

工藤・三浦組(宮古)制す FJ級女子

セーリング



女子FJ級 8レース中7レースで1位と圧倒的な強さを示した宮古商Aの工藤紗弥(左)と三浦ありさ(右)が宮古市・リアスハーバーで練習中

(宮古市リアスハーバー宮古沖) (大谷航心、山崎暢太) 12点(2)宮古商A (佐々木祐哉、千田直人) 13点(3)宮古B (堀合光希、中平亮) 18点

▽420級最終成績 ①宮古A (山根宏貴、山根葉弘) 9点(2)宮古B (木村境吾、伊藤澤史) 11点(3)宮古商B (山根元氣、木村泰智) 22点

▽420級最終成績 ①宮古商A (工藤紗弥、三浦ありさ) 7点(2)宮古A (長沢侑里、若狭郁美) 17点(3)宮古商B (長屋敷美彩、大下重梨沙) 25点

▽420級最終成績 ①宮古商A (宮沢望来、佐々木麗羅) 10点(2)宮古A (田中真琴、加藤美久) 10点(出場2艇)

(順位は直近の順位による)

微風つかみ圧勝 宮古商A 工藤・三浦組

女子FJ級は宮古商Aの工藤紗弥、三浦ありさ(ともに3年)組が8レース中7レースでトップとなる圧倒的な強さで優勝した。

雨が降り、微風のコンディションの中でも「練習でやってきたことを出そう」と臨んだ4日の第7、8レース。思うようなスタートではなかったが、わずかな風をつかむと徐々に他艇を引き離

し、トップでゴールした。

工藤は「風が一定の所から来ない難しいコンディションだったが、風に合わせてセーリングができた」、三浦は「スタートと風に合わせてセーリングの設定など細かい部分を磨いていきたい」と語り、2人は自己採点70点を付けた。

さまざまな海域で経験を積むため5月には稲毛ウィーク選手権(千葉)

に参加。他艇を寄せ付けず優勝し自信を深めた。

川口進監督は「技術や戦術は持っている。減速しない舟のコントロールやどんなコンディションにも対応できる経験が必要」と課題を挙げる。

昨年のインターハイは7位。惜しくも入賞を逃したペアは2週間後の東北大会、その先にある全国舞台を視界に入れる。工藤と三浦は「入賞できなかった悔しさを晴らしたい。絶対優勝する」と口をそろえた。(大和田)



男子420級で優勝した宮古Aの山根宏貴(左)と山根葉弘

▼宮古A山根ペア、スタート修正実る
男子420級は宮古Aの山根宏貴(3年)・山根葉弘(2年)組が前日の第4レースで失敗したスタートを修正し、優勝した。

スタート合図の前にスタートラインを越えてペナルティを受けたのが響き、初日は6レースを終え、宮古商Aと同点だった。

スタートを意識した、この日は2レースともに1位。山根宏は「雨が降り、風が弱く苦手なコンディションだった。優勝を意識しないでスタートに集中した」と胸をなで下ろした。2人は「基本動作を正しくしていきたい」と全国切符を懸けた東北大会への課題を挙げた。